

第3学年 国語科学習指導案

児童 3年2組 男子16名 女子12名
指導者 皆川めぐみ

1 単元名 民話のおもしろさをポップで伝えよう

2 学習材名

中心学習材 「三年とうげ」(光村図書3年下)

補助学習材 「とらとほしがき」(光村教育出版)「世界の民話」絵本各種

3 単元を貫く言語活動とその特徴

民話のおもしろさを、観点に沿って想像しながら読み、ポップで伝えること

本単元を貫く言語活動として「民話のおもしろさを、観点に沿って想像しながら読み、ポップで伝えること」を位置付けた。民話を「話の展開」「登場人物の魅力(登場人物の性格や気持ちの変化)」「印象的な表現」のおもしろさの観点で読み進める。自分なりの話のおもしろさが表れる観点を選んだり、観点を関連させたりしてポップにまとめる。ポップの構成要素は、「タイトル」「引用文」「お薦めしたい人」「本への評価」である。自分なりのおもしろさと関連する叙述を「引用文」として書く。引用文の叙述から想像したことや感じ考えたことを話のおもしろさとして「タイトル」「お薦めしたい人」「本への評価」を書く。「タイトル」「お薦めしたい人」「本への評価」は、25字以内の制限字数の中で、効果的な言葉を用いるようにする。完成したポップを使って交流し、さらに話のおもしろさを味わう。「とらとほしがき」のポップを図書室や各教室に本と共に掲示し、全校のみんなに読んでもらうという目的意識をもたせる。「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」(C読むことウ)の実現に結び付くと考えた。

4 単元について

(1) 児童について

児童は、2年生で「黄色いバケツ」で、「好きなところを紹介すること」の言語活動を通して、楽しむために本を選んで読むこと、「スーホの白い馬」で、「あらすじをとらえ、物語を紹介すること」の言語活動を通して、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことを学んだ。

3年生になって、「海をかつばせ」では、「主人公紹介カードを書くこと」の言語活動を通して、主人公の性格を叙述を基に想像し、一人一人の感じ方の違いに気付くこと、「いろはにほへと」では、「お薦めの本を紹介すること」の言語活動を通して、目的に応じて、いろいろな本を選んで読むことを学んだ。

これらの学習を通して、自分の考えを語ったり考えを共有したりすることに興味を持ち始めている。しかし、登場人物の性格や気持ちの変化などについて、想像したことを伝えるために、感じ取った感想や感動を叙述を基に着目語句を入れて整理することに関しては、指導していく必要がある。

(2) 指導について

中心学習材「三年とうげ」は、「起承転結」の組み立てを理解するのに適した学習材である。場面がテンポよく展開し、登場人物の性格や気持ちの変化もはっきりと描かれている。また、調子のよい言い伝えの言葉や話の終末部に出てくる歌を楽しみながら読むことができる。

補助学習材は「とらとほしがき」も、「起承転結」の組み立てがはっきりしている学習材である。話の展開とともに、登場人物の気持ちの変化が鮮明に描かれている。とらの変容にもおもしろさがある。「アイゴ」という独特な言葉も特徴的である。話のおもしろさの三つの観点に沿って読み進めることができる学習材である。

単元を通して、次の三つを大切にしていきたい。

一つ目は、「自分なりの話のおもしろさに気付くこと」である。「見通す」段階で、「とらとほしがき」のポップを図書室や各教室に本と共に掲示し、全校のみんなに読んでもらうという目的意識をもたせる。民話を

「話の展開」「登場人物の魅力（登場人物の性格や気持ちの変化）」「印象的な表現」の観点で読み進め、自分なりの話のおもしろさに気付くことができるようにする。その後、自分なりの話のおもしろさが表れる観点を選んだり、観点を関連させたりしてポップにまとめる。中心・補助学習材だけではなく、世界の民話の絵本の並行読書の多読も通して、民話のおもしろさを味わわせたい。

二つ目は、「ポップ作りを通して、叙述を基に話の展開に気を付けながら読み、登場人物の性格や気持ちの変化を想像すること」である。これは、児童の実態から、力を引き上げる必要がある学習内容である。ポップの構成要素は、「タイトル」「引用文」「お薦めしたい人」「本への評価」である。自分なりのおもしろさと関連する叙述を「引用文」として書く。「引用文」として書き抜いた叙述の語句に着目したり、叙述を関連付けたりして想像を広げさせたい。場面とともに変化する登場人物の気持ちについては、地の文や行動、会話などから関連的にとらえることができるようにする。そのために、自分を取り巻く現実や経験と照らし合わせて物語の世界を豊かにかつ具体的に感じ取ったり、そこから感じ取った感想や感動を大切にしたりする指導をねらいたい。また、想像したことや感じ考えたことを話のおもしろさとして「タイトル」「お薦めしたい人」「本への評価」を書く。これらは、25字以内の制限字数の中で、効果的な言葉を用いるようにする。

三つ目は、「ポップを使って、話のおもしろさを交流すること」である。グループや全体での交流を通して、新たなおもしろさの気付きを交流する。グループ交流では、ポップを使って話のおもしろさを交流し、代表ポップを決める。その後、全体交流では、ポップを読み合い、話のおもしろさを味わい、新たなおもしろさやおもしろさが人それぞれ違うことに気付くことができるようにする。

本時は、「三年とうげ」を「登場人物の魅力」の観点で読む。登場人物の人物像を「キャラクター分析表」で整理する。人物の変容が表れている叙述を書き抜き、その叙述を基に想像したり感じ考えたりしたことを交流する。交流後、ポップのもととなるシートを使ってまとめる。

5 単元の指導目標

- 民話のおもしろさをポップで伝えるために、進んで民話を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ◎自分なりの話のおもしろさを、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むことができる。 (読むことウ)
- 話のおもしろさの理由を明らかにし、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。 (読むことオ)
- 表現したり理解したりするために必要な文字や語句を増すことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ))

6 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語文化についての 知識・理解・技能
おおむね達成できる状況	民話のおもしろさをポップで伝えるために、話を繰り返して読み、改めて味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読もうとしている。	◎自分なりの話のおもしろさを伝えるために、場面の移り変わりや登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を関連付けたり、語句に着目したりして想像して読んでいる。 ○想像したこと、感じ考えたことを関連付けて、おもしろさの理由を明らかにし、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。	表現したり理解したりするために必要な文字や語句を増している。

7 単元の学習計画及び評価計画（読むこと 9時間）

段階	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
見 通 す	1	1 単元の見 て、言語活動 をつかみ、学習計 画を立てる。	○ポップのモデルを提示し、以下のことをつかま せる。 ・構成要素… 「タイトル」「引用文」 「お薦めしたい人」「本への評価」 ・読みの観点… 「話の展開」「登場人物の魅力」 「印象的な表現」 ○単元の課題を確認し、学習計画を立てる。	関一民話を読み、話のおもしろ さをポップで伝えること に関心を持ち、進んで民 話を読もうとしている。 (発言、ワークシート)
		民話のおもしろさを、三つの観点で想像しながら読み、ポップで伝えよう。		
		○「三年とうげ」 を読むこと ○民話を読む こと	○「とらとほしがき」のポップを図書室や各学年の 教室に、本と共に掲示する目的意識をもたせる。 ○補助学習材「とらとほしがき」、「世界の民話」 の絵本の並行読書を開始する。	
深 め る	2	2 「三年とうげ」 の「話の展開」 のおもしろさを 読む。	○「話の展開」のおもしろさについて、話の始ま りと終わりを比べ、その間の事件発生、事件の 変化をつかみ、小見出しをつける。 ○自分なりの話のおもしろさと関連する「起承転 結」部分、引用文を選び、叙述に着目し、想像 したこと、感じ考えたことをまとめる。	関一中心学習材を、観点に沿 って進んで読もうとして いる。(発言、ワークシート) 読一場面の移り変わりや登 場人物の性格や気持ちの 変化について、叙述を関連 付けたり、語句に着目した りして想像して読んでい る。(発言、ワークシート)
	3 本 時	3 「登場人物の魅力」 のおもしろ さを読む。	○「登場人物の魅力」のおもしろさについて、「キ ャラクター分析表」を用いて、人物像をつかむ。 ○人物の変容が表れている叙述に着目し、想像し たこと、感じ考えたことをまとめる。	読一想像したこと、感じ考 えたことを関連させ、おもしろ さの理由を明らかにし、 一人一人の感じ方につい て違いのあることに気付 いている。 (発言、ワークシート)
	4	4 「印象的な表 現」のおもしろ さを読む。	○「印象的な表現」のおもしろさについて、「繰 り返し」「独特な表現」「教え」に関連する叙述 に着目し、想像したこと、感じ考えたことをま とめる。	言一表現したり理解したりす るために必要な文字や語句 を増して話を讀んだり、ポ ップにまとめている。 (発言、ポップ)
	5	5 話のおもしろ さをポップ にまとめる。	○自分なりの話のおもしろさが表れる観点を選 んだり、観点を関連させたりして、「タイトル」 「引用文」「お薦めしたい人」「本への評価」の要 素でポップにまとめる。	
	6	6 話のおもしろ さを交流す る。	○ポップを読み合い、想像したこと、感じ考 えたことを交流して、話のおもしろさを味わう。	
広 げ る	7	7 「とらとほし がき」を三つ の観点で読 む。	○補助学習材「とらとほしがき」を、「深める」 段階の学習を生かして、個で三つの観点につい て読む。	関一補助学習材の話のおも しろさをつかもうとして いる。(発言、ワークシート)
	8	8 話のおもしろ さをポップ にまとめる。	○自分なりの話のおもしろさがポップに表れる 観点を選んだり、観点を関連させたりして、ポ ップにまとめる。	読一三つの観点で想像しな がら読み、選んだ観 点を関連させ、話のおもしろ さをポップにまとめて いる。(発言、ポップ)
	9	9 ポップを読 み、話のおもしろ さを交流す る。	○グループで、ポップを使って話のおもしろさを 交流し、代表ポップを決める。その後、全体で ポップを読み合い、共通点や相違点に着目さ せ、話のおもしろさを味わう。	読一おもしろさの理由を明 らかにし、一人一人の感 じ方について違いのあるこ とに気付いている。 (発言、ワークシート)
課 外		○「とらとほしがき」のポップを、図書室や各学年の教室に、本と共に掲示する。		

8 本時の学習(3/9)

(1) 目標 「三年とうげ」を「登場人物の魅力(性格や気持ちの変化)」に着目して読み、自分なりの「話のおもしろさ」を交流して、さらに「話のおもしろさ」に気付くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容 (◎主発問)	指導と評価のための工夫
導入	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題, 学習の流れを確認する。	○「話の展開」のおもしろさの観点で読んだことを想起すること 「おじいさんのみりよく」について, 想ぞうしながら読もう。	・「登場人物の魅力」について読み, 話のおもしろさが伝わるように, おもしろさのキーワードに着目しながら交流を深め, ポップにまとめる学習であることを確認する。
展開	3 おじいさんの人物像を整理し, 気持ちの変化が表れている叙述に着目する	○おじいさんを「キャラクター分析表」の10個の観点に沿って整理すること 例 観点「特技・好きなこと」 ・「三年とうげをうっとりとながめていた」という文から「とうげをのんびりながめるのが好き」 ○「キャラクター分析表」を基にしながら, おじいさんが何かをきっかけにして変化している部分を書き抜き, 想像したことをポップのもとにまとめること(ピンク) 例・三年とうげをうっとりとながめていたおじいさんが, 三年とうげで転んだことで, すっかり言いつたえを信じてしまい, 本当に病気で寝込むことになった。 ・「登場人物の魅力」が表れていることが分かる引用文(叙述)を書く。 ・引用文から想像したことや感じ考えたことを書く。	・「ポップの説明の仕方」や「感想の観点」を示す。 ・自分が書いたものから魅力と思う部分を語らせ, 黒板で整理していく。 ・その叙述からどんなおもしろさが表れているか, 想像したことを具体的に書くことで考えを整理させる。
30	4 「おじいさんの気持ちの変化」が表れている叙述に着目し, 想像したことを交流する。	◎「登場人物の魅力(性格や気持ちの変化)」という観点で話のおもしろさを語り, その理由を説明して, 交流しましょう。 ○「登場人物の魅力」のおもしろさを発表すること ・発表者は, おもしろさを叙述を基に想像して説明する。 ・聞く側は, 発表者の叙述に合わせて, 着目語句が同じ場合は, 自分の感じ方を発表する。違う場合は, その語句に関する自分の読みや感じ方を話す。	・聞く側には, 気になるキーワードをメモさせたり, 引用文が同じでも違う感想をもったことなどを話させたりする。 ・おじいさんの気持ちの変化を起こす「トルトリの一言」について全体で考えさせる。
	5 「おじいさんの気持ちの変化」が表れている叙述に着目し, 想像したことをポップのもとに書く。	例 おもしろさは, 三年とうげで一度転んだだけで, もう3年しか生きられないと思ひ込み, その日からご飯も食わずに病気になるってしまったおじいさんが, トルトリの「三年とうげでもう一度転ぶんだよ。」の一言で元気を取り戻すところです。それが挿絵に表れています。寝込んでいるおじいさんともう一度転んだときのおじいさんの表情の変化に, おじいさんの気持ちや様子が表れています。特に, 「すっかりよくなったのじゃあ。」とっているから, おじいさんがすっかり元気を取り戻しているこ	<評価規準> ○「登場人物の魅力」という観点で引用文を選び, 叙述を基に想像したり感じ考えたことをおもしろさとして書いている。

	6 書いたポップのもとを発表する。	とが想像できて、寝込んでいる死にそうなおじいさんと大違いでおもしろいと思いました。 ○自分のポップのもとと比べながら聞くこと	
終末10	7 本時を振り返る。 8 次時の確認をする。	○自分の変容や「おじいさんのみりよく」について、振り返って書くこと ○「印象的な表現」のおもしろさについて考え、ポップのもとにまとめることを知ること	・交流を通して「登場人物の魅力」を読むことができたか、既習を生かしたかという視点で、振り返りを書かせるようにする。

(3) 板書計画

民話のおもしろさをポップで伝えよう
三年とうげ リクム オギ

「おじいさんのみりよく」について、想をうしながら読もう。

●学習の流れ
一、おじいさんのキャラクターを整理する。
二、おじいさんの気持ちの変化を交流する。

③ ②①
えらんだ叙述が同じで想をうしたことがちがうことを話す。
おもしろさをあらわす引用文をさがす
引用文から想をうしたことや感じ考えたことを発表する

想像したこと・考え、感じたこと
・三年しか生きられないという考え方を、三年も生きられると考えるんだな。

病氣のおじいさん
←トルトリ
「三年とうげで、もう一度転ぶんだよ。」
←
しばらく考えて
「うん、なるほどなるほど」
←
ふとんからはね起きる
←
わざとひっくり返り、ころんだ

三、「おじいさんのみりよく」が表れているところをポップのもとに書く。

四、「おじいさんのみりよく」を発表する。

五、ふりかえり